



「未熟がまとう息吹」油彩、キャンバス 130×162cm



「相身」油彩、キャンバス 27×40cm

## 時代を拓く女流洋画家 古河原 泉展 欲望が空と溶けあう時

【会期】 2014年1月10日(金)～26日(日)  
【会場】 ジ・オブセッションギャラリー  
渋谷区猿樂町 29-10  
TEL.03-5489-3686



Izumi  
Kogahara

栃木県宇都宮市生まれ。2000年宇都宮大学教育学部美術科卒業。同年、栃木県芸術奨励賞受賞。2003年から光風会に在籍、2004年を初めて、日展6回の入選を果たし、現在に至る。



「名のない真実」ミクストメディア、紙 75×52cm



「あそぶ」油彩、キャンバス

### 「欲望」と「希望」のかたち

古河原は初期から一貫して女性を描いている。しかし彼女が表したいのは、女性の容姿の美しさではなく、彼女らの内なる宇宙である。リズムカルなタッチで導き出された、しなやかな仕草や思いを抱えたまなざし……。それらの表情が、女性達の心の在り方やいのちの息吹を伝えている。

古河原は、人間の内に満ちるあらゆる欲望のことを、「清い欲」と呼び、肯定している。時に薄汚れていたり、したたかだったりする、人間の欲望。彼女はそれを恥じることなく受け止め、見つめたいと考えている。人間とは、清濁をあわせ持つからこそ愛おしく、その心の奥はかならず澄んでいると信じている。そういった強いヒューマニズムが、彼

女の制作のベースをなし、作品にメッセージ性を与えている。

初個展からまだ半年だが、今回の出品作をみると、筆の動きがより闊達になり、フォルムも力強くなっている。色彩も鮮やかだし、ますます輝いている。背景はすでに絵具という物質の層ではなく、人間の欲望を受容し、見守ってくれる空間と化している。この空間は、彼女が創作の過程で発見した、広大な空と言ってもよいだろう。

「素描は発見。タブローは実験。どちらにしても私にとって作品はすべて過程です」

だから古河原の作品は、作品として完結することはない。古河原泉の現在進行形の絵画世界を見て欲しい。(編集部)